

天の利斯民を濟ふや必ず率導の人を生ず。故に材智の土精を單き慮を竭し智を殫し能を奮ひ、勤勞を辭せず艱難を避けず、孜々然として以て利を興し害を除き事を爲す。洵に自ら率導の責を知って志切に溺るゝを拯ふのみ。是を以て聞達を求めずして功を後に施し、沈滞に安んじて澤流窮り無し。我が黒川治愿の如きは殆んど其の人である（岐阜県郷土偉人傳）。
黒川治愿の功績は、多くの碑によって、頌えられている。

黒川 治愿

自筆

諱 治愿 字 鎌之助

生年 弘化四年（一八四七）四月十五日

生誕地 美濃國厚見郡佐波村（岐阜市柳津町上佐波）

没年 明治三十年（一八九七）五月二十九日

逝去地 名古屋市南久屋町八丁目（名古屋市東区錦通地下鉄栄駅東口付近）

墓地 羽島郡柳津町佐波先塋（岐阜市柳津町上佐波）

法名 應信院釋治愿大居士